

**水稻の生育は早く、茎数は多い状況です。
目標茎数を確保した圃場では速やかに中干しを行いましょう。**

生育概況(普及課生育診断ほ6月20日現在)

平坦部 (川西町)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)	
はえぬき	本年	39.2	514	8.2	46.9
	前年	31.9	402	7.2	41.5
	平年	32.1	401	7.2	40.2
	平年比・差	122%	128%	0.9	6.7

平坦部 (飯豊町)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)	
はえぬき	本年	42.7	473	9.0	46.6
	前年	31.6	411	7.4	42.1
	平年	35.2	458	8.3	42.1
	平年比・差	121%	103%	0.7	4.5

平坦部 (川西町)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)	
つや姫	本年	42.9	552	8.2	46.6
	前年	31.8	405	6.9	39.7
	平年	32.7	364	7.2	39.5
	平年比・差	131%	152%	1.0	7.1

平坦部 (飯豊町)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)	
つや姫	本年	44.3	422	8.9	45.6
	前年	31.0	394	6.8	38.3
	平年	33.9	411	7.6	38.9
	平年比・差	131%	103%	1.3	6.7

【概況】

6月20日現在の生育は、「草丈:長い」「茎数:多い」「葉数:平年より3~4日早い」「葉色:濃い」状況です。
田植え後、気温が高く日照時間も多経過したことから、6月20日現在の生育は平年より早く進んでおり、茎数の発生も多くなっています。

すでに目標茎数を確保した圃場も見られます。茎数の発生を確認し、目標茎数を確保した圃場では速やかに中干しを行い、しっかりと穂肥ができる稲を作りましょう！
まだ茎数が確保されていない圃場では、浅水管理を継続し、分けつの発生を促しましょう。高温で土壌還元(ワキ)が進みやすい状況になっているため、積極的に用水の交換を行いましょう。

当面の対策

1. 水管理による茎数の確保

田植え時期やその後の水管理によっては、茎数の少ない圃場も見られます。目標とする茎数を確保するため2~3cmの浅水管理を徹底しましょう。

また、土壌の還元(ワキ)が進んでいる圃場では、水交換や一時的な落水管理で対応しましょう

2. 作溝・中干しを徹底し、生育を調節する

表のとおり、目標とする茎数を確保したら、すみやかに落水して作溝・中干しを行いましょう。

中干しは、小ヒビが入る程度を目安とします。茎数が多く葉色が濃い場合は、長めの中干しを行いましょう。

中干し終了後は、走り水で飽水管理した後、徐々に間断かん水(2日湛水・2日落水)に移行し、根の活力を維持しましょう。

【表 品種別の目標茎数の目安】

品 種	目標とする1株あたりの茎数	
	70株植/坪	80株植/坪
はえぬき	22~24本	19~21本
つや姫	19~21本	17~19本
コシヒカリ	19~21本	17~19本
ひとめぼれ	23~25本	20~22本
あきたこまち	21~23本	18~20本

3. 葉いもちの早期発見・早期防除

すでに置賜地域管内で、本田での葉いもち発生が確認されています。
また、6月18日に梅雨入り（平年より6日遅い）となり、今後、いもち病の発生しやすい天候が続くと予想されます。

まだ取り置き苗が残っている圃場がみられますので、早急に処分しましょう。圃場を巡回し、葉いもちの早期発見・早期防除につとめましょう。

葉いもち病斑



4. カメムシ防除のため、雑草地・農道・畦畔の草刈りを徹底しましょう。

県病害虫防除所の調査によると、今年も斑点米カメムシ類の発生が多くなっています。（右表）

地域をあげて畦畔や農道、雑草地などの草刈りを徹底して、カメムシの繁殖源を無くしましょう。

カメムシは、ノビエやエノコログサ、メヒシバ等のイネ科雑草を好みます。これらイネ科雑草の多いところは特に草刈りを徹底しましょう。

【表 畦畔・農道のすくい取り調査結果】

置賜地域 6月前半	確認地点率(%)	
	本年	平年
アカスジカスミカメ	14.3	5.8
アカヒゲホソミドリカスミカメ	57.1	31.9
オオトゲシラホシカメムシ	14.3	5.6



アカヒゲホソミドリカスミカメ



アカスジカスミカメ



オオトゲシラホシカメムシ

5. 穂肥の準備をしましょう。

生育が早まっていますので、穂肥が遅れないように準備をしましょう。

表1 品種別穂肥の目安

品種名	穂肥の時期	時期の目安	施用量(N成分量)
あきたこまち	出穂20日前	7月13日頃	1.5～2.0kg/10a
ひとめぼれ	出穂20日前	7月17日頃	1.5kg/10a
はえぬき	出穂25日前	7月12～15日頃	1.5～2.0kg/10a
つや姫	出穂30日前	7月16日頃	1.0～1.5kg/10a
コシヒカリ	出穂15日前	7月31日頃	1.0～1.5kg/10a

注：穂肥時期は平年の出穂期から想定。

6. ケイ酸を追肥しましょう

ケイ酸吸収が高まる時期です。登熟向上、気象災害軽減、倒伏防止に出穂前40日頃、ケイ酸成分で10kg/10a程度を目標に施用しましょう。

7. 残草対策

本年は田植え後の高温により雑草の生育も早く、一部、雑草が残っている圃場が見られます。

翌年の発生源となる種子や塊茎を作らせないことが大切です。残っている雑草の種類（ヒエ、広葉）を確認し、早めに薬剤による防除を行いましょう。